



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	宮城県立聴覚支援学校 幼稚部幼児 3歳児4名, 4歳児4名, 5歳児4名 計12名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (運動遊び) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○東京オリンピック・パラリンピックに向けての意識を高め、オリンピック種目のスポーツに親しむ。(サッカー) ○サッカーの要素を取り入れながら、ボール遊びや鬼ごっこ等の「遊び」を通して宮城県内の子どもたちの健やかな成長を支援する。
5 取組内容	【幼稚部サッカー教室】 (1) はじめのあいさつ (2) サッカーのコーチ(先生)の紹介 (3) キッズプログラム(ボール遊び・鬼ごっこ) ※宮城県サッカー協会の計画による。 (4) サッカーのコーチ(先生)のお話 (5) 感想発表(各クラスの当番) (6) お礼のことは(みんなで:「ありがとうございました。」) ※コーチにお礼の金メダルをあげる。 (7) 記念写真(全員) (8) おわりのあいさつ (9) 退場(コーチとタッチをしながら幼稚部棟へ退場する)
	 
	講師：宮城県サッカー協会公認のサッカーコーチ2名(有資格者)
6 主な成果	○ボールを使って楽しく遊ぶことができた。

	<p>○ボール遊びのいろいろなバリエーションを教えていただき、子どもたちが大変楽しそうに活動していた。</p> <p>○ボールに親しむことからミニゲームまで、楽しく取り組める内容だった。</p> <p>○簡単なボール遊びから、自然とサッカーの基本となる動きにつながるプログラムが組まれていてとても良かった。3歳児の子どもたちも楽しく活動に参加することができていた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○サッカーのコーチが幼児の名前を呼んで活動できるようにするため、帽子に名前の書いたガムテープを貼った。</p> <p>○人工内耳、補聴器をしているので、ヘッドギングはしないことを、事前に打ち合わせしておいた。</p> <p>○柔らかいボールの使用を要望した。</p> <p>○「ボールをもってストレッチたいそう、ける、なげる、ドリブル、シュート、コーチとこどものしあい」の絵カードを事前に用意した。</p> <p>○金・銀・銅のメダルを表彰台に立った選手の首にかけられるようにした表彰台のイラストをラミネートしたものを廊下に設置し、子どもたちにオリンピックの表彰の意識を持たせた。</p> <p>○宮城県サッカー協会の事業の「キッズプログラム 2017」と共催して実施した。体験教室に必要なスポーツ用具は、宮城県サッカー協会が準備した。</p> <p>連絡先 宮城県サッカー協会 担当：大野友希 住所 宮城県宮城郡利府町森号字内ノ目南119-1 電話 090(9035)7137 ファックス 022(767)3076</p> <p>参考：キッズプログラム2017 派遣費 3000円/3コマまで(1コマ60分) 時間は60分を上限とし、参加人数を 派遣対象は、未就学児、小学生の低学年(3年まで) ※ 詳しくは、宮城県サッカー協会のホームページをご覧ください。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○毎月1回から2回、30分程度のスポーツ遊びがあってもよいのではないだろうか。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○外部講師の方に来ていただいて、普段あまり経験しない活動に取り組むというのはとても良かった。しかし、事業を継続する場合は、予算(講師の謝礼と交通費)の確保が難しい。</p>

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 宮城 】

1 実践テーマ	【 IV・V 】
2 実施対象者	宮城県立聴覚支援学校 幼稚部幼児 3歳児4名, 4歳児4名, 5歳児4名 計12名
3 展開の形式	(3) 学校における活動 ① 教科名 (運動遊び) ② 行事名 () ③ その他 () (4) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○東京オリンピック・パラリンピックに向けての意識を高め、オリンピック種目となっているスポーツに親しむ。(空手) ○日本の伝統武道に親しむ。
5 取組内容	【幼稚部空手体験教室】 (1) はじめのあいさつ (2) 空手の先生の紹介 (3) 空手体験 ・空手師範 白石智章さんのお話を聞く。 ・演武を見る。 ・空手の基本的な動きを試してみる。 ・一人一人、空手の動きを発表する。 (4) 空手師範白石さんのお話 (5) 感想発表(各クラスの当番) (6) お礼のことば(みんなで:「ありがとうございました。」) ※お礼の金メダルをあげる。 (7) 記念写真(全員) (8) おわりのあいさつ (9) 退場(師範の先生とタッチをしながら幼稚部棟へ退場する)





講師：空手師範 白石智章
(元 世界ろう者空手大会日本代表)

<p>6 主な成果</p>	<p>○形の披露があり、まず子どもたちがやってみたいという意欲が高まった。基本の動きも、分かりやすくていねいに指導していただいたので、全員が楽しめた。</p> <p>○初めて経験する子どもたちに、分かりやすく指導していただいたので、貴重な経験ができた。</p> <p>○先生の形、迫力がありみんな集中して見ていた。普段経験できないことに触れることができ、とてもよい経験になった。</p> <p>○先生の形を見せてもらったとき、子どもたちが「かっこいい！」と目を輝かせていた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○大きな世界地図を用意し、デフリンピックを開催した国を提示した。</p> <p>○始めに形の披露をしてもらい、空手の迫力を実感できた。</p> <p>○発表をビデオ撮影しその場で見て、本人も見ながら先生から簡単なコメントをいただいた。</p> <p>○主な活動である「つく、ける、うける、かた、きあい、くみて(しあい)」の絵カードを事前に用意した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○できれば、もう少し子供同士がぶつからないようにして、お互いの動きも見合えるようにしても良かった。</p> <p>○裸足になれたらもっとよかった。</p> <p>○子どもたちに全身を使って動く場面があるとよかった。</p> <p>○いろいろな空手の形を教わって子どもたちも一生懸命取り組んでいたが、活動よりも説明がすこし長いように感じた。</p> <p>○今回講師は、聴覚障害のある方に依頼した。今後はデフリンピックの体験教室や学習なども進めていきたい。</p> <p>※ 「デフリンピック」とは ろう者のオリンピックとして、夏季大会(第1回は、1924年・フランス)と冬季大会(第1回は、1949年・オーストリア)を4年ごとに、世界各地で開催している。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○様々な競技に触れる体験はよいと思う。しかし、事業を継続した場合は、予算(講師の謝礼と交通費)の確保が難しい。</p>

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	宮城県立聴覚支援学校 小学部児童 1年5名, 2年2名, 3年4名 4年4名, 5年3名, 6年6名 計24名
3 展開の形式	(5) 学校における活動 ① 教科名 (体育) ② 行事名 () ③ その他 () (6) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○障害者スポーツの体験を通して、スポーツに親しむきっかけを作る。 ○パラリンピック競技・全国障害者スポーツ大会競技を経験する。
5 取組内容	<p>【小学部障害者スポーツ体験教室】</p> <p>第1部（45分）小学部1～3年児童（11名）と第2部（45分）小学部4～6年児童（13名）に分かれて実施する。</p> <p>(1) あいさつ (2) 講師紹介 (3) 活動① 車いすの乗車体験（車いすバスケット用車椅子） （車いすテニス用車椅子） ※ パラリンピック競技種目 (4) 活動② フライングディスク体験 ※ 全国障害者スポーツ大会競技種目 (5) あいさつ</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>車椅子の乗車体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>フライングディスク</p> </div> </div> <p>講師：仙台市障害者スポーツ協会職員 2名 仙台市障害者スポーツボランティア 2名</p>



<p>6 主な成果</p>	<p>○車椅子は、一般の車椅子と違い、競技用の車椅子の設備であることを説明していただいた。(タイヤに傾斜があること、バンパーがついていることなど。)</p> <p>○車椅子はバスケット用とテニス用の2台持ってきていただき、2グループに分かれて乗車体験をした。</p> <p>初めはなかなか思った方向に進めないでいたが、慣れてくると操作できるようになった。</p> <p>○フライングディスクは、全国障害者スポーツ大会競技種目であり、聴覚障害者も参加できる競技種目であり、生涯スポーツとして取り組むことも視野に入れて実施した。競技の結果が分かりやすく、児童も積極的に楽しんで取り組み、適切であった。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○講師が名前を呼んで活動できるようにするため、帽子に名前の書いたガムテープを貼った。</p> <p>○仙台市障害者スポーツ協会「障害者スポーツ何でも相談事業」の「障害者スポーツ体験」(出前教室)の共催として実施した。体験教室に必要なスポーツ用具は、仙台市障害者スポーツ協会が準備した。</p> <p>連絡先 仙台市障害者スポーツ協会 担当：菊地利之 寺嶋博信</p> <p>住所 仙台市宮城野区新田東4-1-1 元気フィールド仙台</p> <p>電話 022(236)8690</p> <p>ファックス 022(236)8691</p> <p>※ 詳しくは、仙台市障害者スポーツ協会のホームページをご覧ください</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○実践する競技は、児童の興味・関心があるかどうかを十分配慮する。</p> <p>○児童は聴覚障害があるので、手話通訳が必要である。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>○今回は、仙台市障害者スポーツ協会の事業と共催だったので、講師の旅費と謝礼は無料だった。</p> <p>○実施する場合は、年間指導計画に取り入れて、教育課程に位置付ける。</p>

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	宮城県立聴覚支援学校 全校 幼児・児童・生徒 86名 保護者・家族 約344名 卒業生・地域住民 約 70名 合計 約500名
3 展開の形式	(7) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (宮ろう祭 ー文化祭ー) ③ その他 () (8) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	○東京パラリンピックに向けての意識を高め、パラリンピック種目のスポーツを知る。
5 取組内容	【宮ろう祭における東京2020パラリンピックの展示コーナー】   見学の様子
6 主な成果	○多数の来場者に、東京パラリンピック競技についてPR することができた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	○パンフレットや図書などを掲示し、視覚的な情報を提供した。 ○展示コーナーを、人通りが多い教室に配置した。
8 主な課題等	○文化祭の前日に展示を準備するための、人員と時間が必要である。 ○テーブルやパネルが確保できるかどうか、他の展示発表コーナーと物品の調整が必要である。
9 来年度以降の実施予定	○実施する方向で検討したい。